
全学集会の経過

昭和44年10月6日

学 長

明治大学の危機を打開する目的で開催を試みた10月4日（土）の全学集会は、一部の全共闘系学生の妨害によって流会のやむなきにいたり、大学当局の考えを全教職員・学生に直接訴えることができませんでした。

当日午後1時15分八幡山グラウンド陸上競技場集った数千名の教職員・学生の前に学長があらわれ、所信の表明を行なおうとしたところ、演壇周辺に集っていた全共闘系の学生が一斉に学長その他当局者をとり囲み、マイクロフォンを奪って学長らを演壇から暴力的に引きおろしました。それと時を同じくして、会場の外に待機していた他大学生の一団が、ラグビー場の金網を破って会場に乱入し、同じく演壇を占拠しました。やむを得ず大学は別に用意したマイクから、学長の代理者が学長の所信を説明しましたが、上述の学生集団は会場のスピーカーの配線を切っても妨害しました。

学長はその後、再度所信表明を試みましたが、全共闘系の学生は学長などをとり囲んで妨害し、もみ合いとなりました。理事長はその間に心臓の発作を起し、救急車で病院に運ばれるにいたしました。

このような状態となって、所期の目的を果たすことなく、全学集会は流会となりましたので、学長が用意された所信をお送りし、大学の方針について全教職員、学生にご了承願いたいと思います。

大学のおかれている現状は、教育機関としての大学の責任はもとより、9月30日（火）駿河台校舎周辺でおきた日大校舎奪還闘争による大混乱という事態が社会に与えた脅威、そして大学の施設の破壊状態が東大の場合を上まわり、これまで全国の大学では見られなかったほどのものであることなど、1日の猶予も許されない状態です。全学一致して学園の正常化を実現するよう心から念願します。

以 上
